

機関番号：12601
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009年度～2010年度
 課題番号：21730149
 研究課題名（和文） 中国歴史教育に関する実証的研究
 —1949年以降の教科書の歴史観・外国観を徹底分析
 研究課題名（英文） Empirical study of China's history education— analysing historical perspectives and foreign views from textbooks since 1949
 研究代表者
 王 雪萍（WANG XUEPING）
 東京大学・教養学部・講師
 研究者番号：10439234

研究成果の概要（和文）：近年、中国国民の対日感情の悪化が注目されている。その原因の一つは中国政府によって推進された愛国主義教育だと言われている。しかし、研究代表者の研究を通じて、1990年以降の愛国主義教育の強化の目的は「反日教育」ではなく、祖国と共産党を愛し、社会主義現代化建設のために献身する気持ちを育てるための教育であるということを証明した。そこで、本研究は中国の歴史科の教学大綱（日本の学習指導要領に相当する）と教科書の記述内容に絞って、1949年から2005年までの中国政府が歴史教育を通じて学生に伝えたい歴史観と外国観を分析した。

研究成果の概要（英文）：In recent years, it has been noted that anti-Japan sentiments among Chinese people have become worse than before. It is said that one of the reasons of this phenomenon is due to the patriotic education promoted by the Chinese government. However I proved that the aim of strengthening nationalism since 1990 is not to develop “Anti-Japanese education” but to develop people’s feelings of love for their motherland and the Communist Party, and also to educate feelings of commitment for the construction of modern Socialism. Therefore, this study mainly focused on the Jiaoxuedagang (guideline of the History curriculum set by the Chinese government) and the contents of textbooks, analysing the history education provided by the government over the period of 1949-2005 and what it aims to convey the students regarding the historical perspectives and foreign views.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：政治・国際関係論

キーワード：中国、日本、歴史教育、歴史認識、日中関係、愛国主義教育

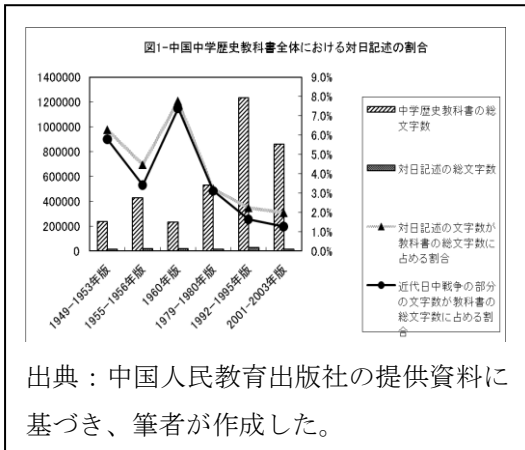
1. 研究開始当初の背景

2005年4月、中国各地の「反日」デモが発生した。この時の中国における反日感情の高まりの主要な原因の一つに、日本においては1990年代中国政府が打ち出した教育方針

としての「愛国主義教育」の強化、とくに江沢民が要求した小中学生に対する近現代史及び国情教育の強化の方針の影響が指摘された。その中には、「愛国主義教育」を「反日教育」と同一視する論調も少なくなかった

のである。その中国の歴史教科書の記述には日本の侵略行為の残虐さのみを強調したものが多く、その結果として反日感情が植え付けられたことが強調された。

しかし、研究代表者は中国の中学校の歴史教科書を分析した結果、図1に示した通り、1990年代の中学の歴史教科書の総字数はそれ以前の倍ぐらい増加したことによって、対日記述の総字数も増加した。しかし対日記述と近代日中戦争の部分の総字数に対する割合は、1960年以降、一貫して下がってきたことがわかった。



つまり、1990年以降の愛国主義教育の強化の目的は「反日」ではなかった。が、中国人の対日イメージは、近代史教育が重視される歴史教育に影響されている可能性が否定できない。特に中国の歴史教育は政府の意向に反映されている傾向が強いため、中国政府の歴史教育に対する考え方を明白にする必要があると認識した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、一般人民向けの愛国主義普及キャンペーンではなく、中国の愛国主義教育が歴史の授業の中でどのように実践されてきたかを明らかにすることにある。そのため、特に中国政府が児童や生徒たちにどのような歴史観を伝えたいのかを分析する必要がある。すなわち、その歴史観は時代や政治状態の変化、さらには国際関係、特に日中関係の変化に伴って変化してきたものなのか、変化したとしたらどのように変化したのか、他方で、一貫して変わらないものなのかを分析する必要があると思われる。また、生徒に伝えたい歴史観とともに、中国と関係する外国を教育する方法をも分析する必要があると考えた。

そこで、本研究は、国際政治の観点から、時系列で総合的に中国歴史教学大綱（日本の学習指導要領に相当する）と教科書を分析する点の特徴である。具体的には、1949年以降の歴史教科書の字数の変化について分析

することに加え、教科書に書かれた史実の具体的な単語の表現方法、図、写真の使い方を含めて多角的な分析を試みる。中国政府が歴史教育を通じて児童や生徒に伝えようとする歴史観を明らかにする。また、各時期に教育しようとする歴史観の変化は、教科書の日本記述への影響を分析し、各時期に教育を受けた中国人の日本イメージへの影響についての分析も試みる。これは社会への研究成果の還元を試みともなる。

3. 研究の方法

(1) 研究手法

中国においては、建国初期から1985年までに「一綱一本制」（一つの大綱、一種類の教科書）がとられ、1986年以降に「一綱多本制」（一つの大綱、多種類の教科書）がとられてきた。「教学大綱」は教育部の権限において策定され頒布されたものであるが、中国政府の歴史教育に対する考え方の変化を明らかにするために、その変遷を分析することは重要と思われる。さらに、「教学大綱」にそって編修された歴史教科書そのものについても分析する。特に、1949年の中華人民共和国建国以降、人民教育出版社が編集した国定教科書を中心に分析する。中国においては1986年から教科書検定制度が開始されたが、高校入試の各省の統一試験と大学入試の全国統一試験への対策のため、半分以上の学校は国定教科書の性質を持つ人民教育出版社編集の教科書を採用しているのが現状である。しかし、比較の観点から、地方の特徴が強く現れている上海市が1986年以降に独自に編集した教科書をも分析対象とする。本研究は、これらの教学大綱と教科書における対日記述の変遷を抽出し、建国以来、中国の教科書に記述された日本像について検討した。

(2) 調査活動

- ①人民教育出版社（中国北京市）
→人民教育出版社出版の小中高の歴史教科書と「教学大綱」
- ②中国教育部図書館（中国北京市）
→中国の教育政策関連資料
- ③中国外交部档案馆（中国北京市）
→教育部から外交部に送付した教育関連档案
- ④北京市档案（中国北京市）
→北京市の教育政策資料、教育部から北京市へ送付した教育関連档案
- ⑤華東師範大学（中国上海市）
→華東師範大学出版社によって出版された上海市独自の歴史教科書
- ⑥上海師範大学（中国上海市）
→上海師範大学出版社によって出版された上海市独自の歴史教科書
- ⑦上海市档案馆（中国上海市）

→上海市の教育政策資料、教育部から上海市へ送付した教育関連檔案

⑧財団法人教科書研究センター附属教科書図書館（東京都）

→日本の各出版社に出版された小中高等学校の歴史教科書

4. 研究成果

(1) 本研究の調査活動を通じて、中国政府が制定した小中高等学校の歴史科の「教学大綱」と国定教科書性質が強い人民教育出版社によって出版された1949年から2005年までの小中高等学校の歴史教科書を集め、また比較のため、1990年代以降上海市が独自に開発した歴史教科書と日本の各出版社によって出版された歴史教科書の一部分を集めた。本研究の資料調査は予定通り完成できた。本研究の調査活動によって集めた教科書のリストは以下のHPから確認できる。

<http://www.wang-xueping.com/document2009.pdf>

(2) 調査活動を通じて集めた資料の「教学大綱」と歴史教科書に対する分析結果は以下の通りである。

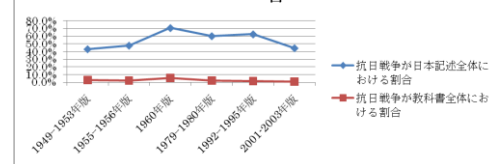
①中国の愛国主義教育は、1949年の建国後、歴史教育の中で、一貫して強調されてきた事項である。しかし、その時期の国内外の状況に応じて、内容は随時変化してきた。愛国主義教育の方針は、国内政治に影響されることが大きい。また、愛すべき対象は、「祖国・人民」（1950年）から、「中国共産党、社会主義祖国」（1956年）、「中国共産党、毛沢東と祖国」（1963年）、「共産党、無産階級の革命指導者、人民、祖国」（1978年）、「共産党、人民、祖国」（1980年）、「社会主義祖国、社会主義事業、共産党」（1986年）、「悠久な歴史、文化を有する偉大な中国、中華民族、中国共産党と社会主義」（1991年）という過程を辿って変化した。2000年以降には、「愛国主義教育を薄め、国際社会との共存を強調する教育」が施行されるようになった。

②中国の歴史教育における主要敵国は、1950年代の「米帝国主義を中心とする侵略陣営」から、1960年代の「米帝国主義とその追随国」へ変わり、さらに1978年から1980年代の「社会帝国主義のソ連と資本帝国主義の米国」、1990年代の「帝国主義列強の資本主義国家」へ変わった。最終的に2000年代に入ると、主要敵国は消失していった。歴史教育を通じて各時期の主要敵国の歴史及び中国とその国との関係を詳しく説明する傾向が見られ、またその国との戦いを指導した共産党、社会主義中国の努力を児童や、生徒に教えようとした。歴史教育における主要敵国の変化は、中国を取り巻く国際環境に影響されることが多い。

③国内外の政治情勢に影響された中国の

歴史教育における日本や近代における日中両国の衝突の歴史に関する記述は変化してきた。文革前の一時期を除けば、中国建国後から1986年までの間の中国の歴史教育において、日中戦争時の日本の侵略行為に対する批判は、前面には出てこなかった。しかし、1987年以降、特に1990年代に入り、日本の具体的な侵略行為や、占領地の統治に対しても詳細な説明が加えられるようになる。それは、日本に対する批判と読み取ることも可能である。とはいえ、図1と図2に示した通り、教科書における日本記述、近代における日中衝突、抗日戦争に関する記述の字数の割合の下降傾向を勘案すると、侵略行為を詳細に説明した記述は日本のみに対して打ち出された方針ではなく、1840年以降の100年余りの苦難の時期に、中国を侵略、圧迫した帝国主義列強全体に対する記述方針であったことも留意しておかなくてはならない。特に、日本関連記述の変化は、日中関係の変化の時期とは一致していないことから、中国の歴史教育の変化は、中国の対米ソ関係と国内問題に影響されることが多く、個別の国との関係にさほど影響されていないことがわかった。

図2 中学歴史教科書における日中戦争の割合



出典：中国人民教育出版社の提供資料に基づき、筆者が作成した。

④階級闘争史観は「マルクス主義」が提起した共産主義の基本理論である革命史観の一部であるため、中国が社会主義の道を放棄しない限り、理論としての唯物史観は基本的に消滅することはないと考えられる。中国の歴史教育の特徴は、毛沢東が発動した独自の革命理論である「継続革命論」によって、政治闘争と連動する形で歴史教育が多大な影響を受けたことにある。しかし1978年の改革・開放政策によって、中国国内では階級闘争はあまり強調されなくなった。階級闘争史観は時代の変化に伴い、中国共産党の統治に必要とされなくなり、2000年以降、中国社会では階級闘争が言及されることはほとんどなくなった。中国の歴史教育における階級闘争史観の衰退は、日本の中国侵略の責任分析にまで影響を与えた。このような歴史教育を受けた若者は、A級戦犯が代表する一部の軍国主義者と統治階級の圧迫を受けた日本の一般人民の戦争責任を区別できなくなった

と考えられる。ゆえに、2005年の「反日」デモのときに現れたように、教科書問題などの歴史認識問題が発生する場合の中国人の矛先は、統治階級の代表である日本政府、資産階級だけではなく、一般国民にも向けられたのである。

(3) 研究成果の波及効果

研究代表者は研究の内容を5の主要な発表論文で記載している学会や国際会議で報告し、論文、著書として公刊し、日本語、英語、中国語を使って、国内外の学者、一般民衆に研究の成果を広めた。研究期間内で研究成果の一部しか公刊できなかったため、研究期間終了後も国内外の学会で報告し、また研究論文、書籍として公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

王雪萍「中国留日国費学生に対する予備教育の実態調査(1979～1984年)―東北師範大学における赴日学部留学生教育を中心に」『華僑華人研究』(日本華僑華人学会) No. 6、2009年11月、40-62頁、日本語。査読有

Xueping Wang “History textbooks controversies regarding China in Japan” *Kwansei Gakuin University humanities review* : Kansei gakuin University., Feb. 2010. pp81-88. 英語。査読無

王雪萍「時代とともに変化してきた抗日戦争像 ―一九四九～二〇〇五―中国の中学歴史教科の「教学大綱」と教科書を中心に」『軍事史学』(軍事史学会) 45巻4号、2010年3月、10-32頁、日本語。査読有

王雪萍「中華人民共和国初期の留学生・華僑帰国促進政策―中国の対日・対米二国間交渉過程分析を通じて」『中国21』(愛知大学現代中国学会) Vol. 33、2010年7月、155-178頁、日本語。査読無

[学会発表] (計 10件)

王雪萍「建国初期中国の留学生・華僑政策と帰国留日学生・華僑」<慶應義塾大学東アジア研究所プロジェクト>「アジア太平洋地域におけるマイグレーションと日本の外国人受け入れに関する総合的研究」第1回研究会：慶應義塾大学、2009年5月23日、日本語。(東京都)

王雪萍「中国の歴史教育課程における階級闘争史観の変容―「教学大綱」と教科書の記述の変化を中心に」日本現代中国学会 2009年度関西部会大会：大阪市立大学文化交流センター、2009年6月13日、日本語。(大阪府)

王雪萍「歴史教育中的抗日戦争：1949-2005―以初中歴史『教学大綱』和教科書為中心―」戦時国際関係―中日戦争国際共同研究第四次会議：重慶市(中国社会科学院近代史研究所・西南大学共催)、2009年9月6日-11日、中国語。(中国重慶市)

王雪萍「戦後初期留日学生、華僑の選択和國家認同―生活在中日両国之間的中国人」“Identity and Diversity of the ‘East Asian World’ from a Historical Perspective” International Conference : (Co-sponsors: Forum for the Study of East Asian History, Northeast Asian History Foundation) Grand Hilton Seoul (KOREA), 2009年11月6日-7日、中国語。(韓国ソウル市)

王雪萍「日本留学経験者の日本イメージ-中国国費赴日学部留学生を中心に-」、<慶應義塾大学 SFC・ORF セッション>「新しいプラットフォーム：SFCの国際化と日本研究」、東京・六本木ヒルズ、2009年11月23日、日本語。(東京都)

王雪萍「1950年代の中国の対日米外交―孤立打開策としての留学生・華僑帰国促進政策」、京都大学人文科学研究所現代中国研究センター「中国社会主义文化の研究」共同研究班報告会、京都大学人文科学研究所、2010年2月19日、日本語。(京都府)

王雪萍「中国の歴史教育における主要な敵国の変容：1949-2005―建国後の「教学大綱」と歴史教科書を中心に―」、慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究センター第3班全体研究会、慶應義塾大学東アジア研究所、2010年3月18日、日本語。(東京都)

王雪萍「戦後留日学生・華僑の帰国と新中国の外交」、神奈川大学留学史研究会報告会、神奈川大学、2010年6月26日。(神奈川県)

王雪萍「廖承志と帰国留日学生・華僑」、日本華僑華人学会 2010年度大会、横浜山手中華学校、2010年11月14日、日本語。(神奈川県)

王雪萍「廖承志と中国の対日民間外交」、戦後東アジア国際政治研究会第2回熊本会議、

熊本学園大学、2011年2月12日、日本語。

(熊本県)

[図書] (計 5件)

王雪萍著『改革開放後中国留学政策研究—1980—1984年赴日本国家公派留学生政策始末』単著、中国・世界知識出版社、2009年7月、全229頁、中国語。査読無

王雪萍「改革開放後国家公派赴日留学生派遣政策総述」王輝耀主編、苗丹国・程希副主編「中国留学人材発展報告2009」中国・機械工業出版社所収、2009年10月、157—198頁、中国語。査読有

王雪萍「留日学生の選択—愛国的情熱と歴史的影響」劉傑・川島真編『1945年の歴史認識：圍繞“終戦”の中日対話嘗試』、中国社会科学文献出版社所収、2010年1月、189-225頁、中国語。査読無

廖赤陽主編李恩民・王雪萍副主編『大潮涌動：改革開放と留学日本』、共編著、中国社会科学文献出版社、2010年8月、32-48頁、206-231頁、232-280頁、中国語。査読無

王雪萍「中国の歴史教育と対外観（1949—2005）——『教学大綱』と歴史教科書を中心に」添谷芳秀編著『現代中国外交の六十年—変化と持続』（慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究シリーズ）慶應義塾大学出版会所収、2011年3月、51—69頁、日本語。査読無

[その他]

ホームページ等

<http://www.wang-xueping.com/kaken2009.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

王 雪萍 (WANG XUEPING)

東京大学・教養学部・講師

研究者番号：10439234